

## The 41st American Society for Photobiology 2022 に参加しました

2022年9月25日から28日にかけてアメリカ合衆国のアルバカーキで開催された The 41st American Society for Photobiology 2022 Biennial meeting に参加してきました。最後に海外の学会に参加したのが2015年にコロラド州デンバーで開催された ARVO 学会だったので、実に7年ぶりの海外学会です。今回学会が開催されたアルバカーキはニューメキシコ州最大の都市ですが、実は州都ではありません。州都は第四の都市サンタフェです（サンタフェと聞くと、ある一定の年齢層の方々はあの女優さんを思い思い浮かべることでしょう…）。アルバカーキはネイティブアメリカンとメキシコの文化が交じり合ったような独特の雰囲気が漂う街です。そのアルバカーキ発祥の地である Old Town と呼ばれる地域にある老舗ホテルで学会が開催されました。私の発表は最終日の昼前だったので帰ってしまった人も多く、思っていたよりも参加者が少なかったので



すが、おかげでそこまで緊張せずに済みました。発表したのは“Photobiological Studies to Advance Germicidal UV-C for Infection Control”というセッションで、終了後は発表者全員で記念撮影をしました。これまで論文などで名前だけは知っていたアメリカの研究者の方たちと連絡先を交換することができ、とても有意義な学会となりました。海外の学会に参加しておいてなんですが、私は英語がとても苦手です。どうしようかと思っていたところ、共同研究をしているウシオ電機の社員の方が2名サポートをして下さいました。学会場で色々な研究者の方に引き合わせて頂きましたが、私一人だったら「お願いですから話しかけないで下さい、英語は聞き取れないし話せないんです」というオーラを出しまくって学会場の端っこに座っていたと思います。

この学会に参加することになったのは6月だったのですが、当時はアメリカへの入国よりも日本に帰国する時のハードルが高く、入国する72時間前にPCRで陰性であることを証明しなくてはなりません。PCRをどこで受けるのか（アルバカーキ？それとも乗り継ぎのロサンゼルス？）、もし陽性になったらどうするのかなど、気がかりがたくさんあったのですが、9月に入り72時間のPCR陰性確認が不要になり本当に助かりました。事前にスマホにアプリをダウンロードしてワクチンパスポートを登録したり多少の手続きは必要でしたが、帰国時の入国はとてもスムーズでした。5日間の海外旅行の割には荷物が少なく通勤用のリュックに肩掛けカバン一つだったせいか、税関で「何日間？」「5日ですね」「お仕事ですか？」「はい」「荷物は…それだけですか？」「はい（なにか？）」という会話の後、少々訝しげな顔をされて、念のため、と肩掛けカバ

ンの中を見られたぐらいです。新型コロナによる規制が少しずつ解除されるようになり、国内学会だけでなく海外での学会参加も増えていくのだろうなという印象を受けた久々の国際学会でした。なお、英会話については少々反省をし、YouTube でリスニングの練習をするようになりましたが、King を Kill と聞き間違えるなど前途多難であります。

海津幸子